

2025/06/27

【異分野融合型研究に関する補足説明】

山口大学の JST-SPRING 事業「深化した“シン・文殊グループ”を核とする異分野融合研究実践型博士後期課程学生育成プロジェクト」(以下、本プロジェクト)で重視している異分野融合型研究について説明します。申請書記載の際にご参照ください。

■異分野融合型研究の2つの考え方

異分野融合型研究の研究テーマを考える際には、大きく分けて以下の2つのアプローチがあります。

(1) 自分の専門的な「研究手法」や「思考方法」を、全く異なる分野の研究に適用(応用)する。

例: 特定のデータ解析手法を、これまでとは異なる分野のデータ分析に応用する、など。

(2) 現在自分が行っている研究(博士論文の研究テーマなど)に、全く異なる分野の「研究手法」を取り入れる。

例: 自身の研究に、これまで使ったことのない実験技術や理論モデルを導入する、など。

この2つのアプローチは、異なる視点からの異分野融合型研究を示しています。アプローチ(1)は、自分の専門性を「他者のため」に活かすという視点に近く、アプローチ(2)は、自分の研究を「深化させるため」に活用するという視点に近いと言えます。

■本プロジェクトが期待する異分野融合型研究の方向性

本プロジェクト(山口大学 JST-SPRING 事業)におけるシン・文殊グループ活動で実施を考えている異分野融合型研究の姿は、上記のアプローチ(1)です。

したがって、申請書に異分野融合研究について記載する際は、自分の強み(研究手法や思考方法など)を活かして、他の分野の研究に貢献する、あるいは共同で新たな価値を生み出すという視点で提案してください。

■相手となる研究分野の選び方の例

異分野融合型研究の相手となる研究分野を選ぶ際は、自分の専門分野とはなるべく離れた研究(研究者)を念頭に置いて検討してください。

適切な研究者が見つげにくい場合もあるかと思います。その際は、以下のような方法を参考にしてください。

(1) 山口大学大学院内の他研究科の研究者の研究テーマを参考にする。

(2) もし上記の選択肢が少ないと感じる場合は、他研究機関の専門外の研究者の研究テーマに、自分の研究手法や思考方法を活かす、またはそこから異分野融合研究に発展させるという内容で記載しても構いません。

以上をまとめると、本プロジェクトでは、自分の強みを最大限に活かし、他者との協働を通じて大きな成果が得られそうな異分野融合型研究テーマとその内容を提案していただくことを期待しています。自分の研究を深化させるだけでなく、分野を超えて貢献し、新たな価値を創造する視点での提案をお待ちしております。